

学校に大きな笹が2本届けられた。毎年地域の方が届けてくださる。1人1枚の短冊を配り、子どもたちが願い事を書いて飾る▼七夕の由来は、諸説あるようだが、子どもたちには、織姫様と彦星様が天の川をはさんで年に1度出会える日というのが一番しっくりくるだろう。星好きな子どもは、ベガ・アルタイル・デネブ、夏の大三角と言うに違いない。さそり座のアンタレスも知っているだろう▼季節を感じながら1年を過ごすのは素敵なことだと思う。そういえば、北勢町はあじさいの町であった。旧役場の周りを中心にあちらこちらであじさいをみかける。じっくり見てみるとそのあじさいにも大きく2種類あることを見つける。あじさいとガクあじさい▼空を見上げると最近は曇り空。雲の形は、10種類あるらしい。恐ろしいのは積乱雲。雲も風もないよく晴れた朝は、たくさんの飛行機雲が東西に行き交う▼季節を感じさせてくれるのは、いわば自然やその現象からである。温暖化に伴ってその現象にズレと異常が起こっている▼地球温暖化やSDGs未来に向かって生きるための課題も学習させたいけれども、その意欲になるものは、地球やふるさとをかけがえのないものとして、自分事にできるかどうかである。わたしたちが子どもたちに地球やふるさとのすばらしさを語ることかもしれない。あじさいの花を見て、ふるさとを思う子がいてもいい。